

山畑地区は島地・堀を結ぶ国道376号線と串を結ぶ県道9号線の周囲の地域です。島地川沿いでもありませんが、山が川に迫った地形で集落は谷沿いの狭いエリアにあります。平安時代以前から人が住む集落があったようで、新旧さまざまな歴史的エピソードが残っています。旧往還路は現国道より山よりにあり、既に田圃や国道により寸断され一連として歩くには危ないようです。ウォーキングルートとしては対岸の向原林道を主としたコースを紹介します。

## ①月水土パーク(向原ウォーキングコース出発点)

島地地区の下水の終末処理場に付随する公園である。小さいながら、ゲートボールや子供が遊ぶには十分に駐車場、トイレも完備されている。近所の方により、いつも綺麗に管理されているのもうれしい。

## 向原ウォーキングコース(片道25分)

月水土パークを出発点として、向原林道を抜け、向原橋、その先の土手道までを歩く。軽トラックが通れる程度の道幅が確保されている。島地川に沿い、高低差も少ない。流れが見えたり、林に囲まれたり、山水が湧いていたり、緑と水に親しみながら歩ける。

## ②御崎神社

創建時(承和2年(835))は黄幡社と称し、中世は大番社、明治4年には御崎神社と社名を改めた。社伝では疫病が流行したので、霊石を奉りスサノオノミコトを勧請し、子午年毎(6年毎)に大元神楽を執行してきたとある。この霊石は何故か、神社の隣、かつての山畑集会所の礎石として残っている。

## ③白井田用水記念碑

明治32年(1899年)から明治34年に下畑地区に水を引くために用水路が作られた。トンネルを掘ったが工事は難航し、ついには岡村幸四郎が私財をなげうってこの工事を完成させた。この用水路によって、90アールの水田に水が行くようになり、新たに300アールの水田が開発された。

## ④台場跡・亀山峠

元治元年(1864)毛利敬親が征長幕軍の東方からの侵攻を防御する為、洋式砲台を築いた。慶応元年(1865)藩内の俗論政府と高杉晋作の諸隊が争った。俗論党は敗れ、諸隊の一つ鷹懲隊(おうちょうたい)が本台場の守備を行う事になった。この時、地元民も使役に駆り出され、隊員に志願する者もいたと言われている。

明治2年(1869)、維新がなり藩は新政府として旧諸隊を編成替えとして隊員の選抜が行われた。明治3年、選抜から漏れた不平分子が反乱軍となった。反乱軍は、一時島地の観宗寺(現 観念寺)に本部を構え、台場を占拠したが、伏野の常備軍と、藤木方面から島地に入った右田毛利軍に挟まれ、串に向かって退散した。反乱軍はさらに漢陽寺(鹿野)まで逃走したが、ついには沈静させられた。現在は台場跡が2ヶ所残っている。

## ⑤古代豪族の壺棺出土

1933年の道路工事中に出土した。古墳後期(6世紀)のものと推測される。残土と共に捨てられたと資料にあり、現地には何も残っていない。

## ⑥若宮神社

産土神を祭る。勧請時は不明であるが、室町時代以前と考えられる。中世には奉納神楽が盛んであったようで、今も神楽用の鳥毛など納められた木箱が伝わっている。すぐ近くを流れる小川は手水川と呼ばれ宮に参拝の際の浄めの手水をとっていたからと言われる。享保14年(1729)に藩に提出した由緒書きには時の領主が鎧古胴を奉納した、社藪には目通り7尺(2.2m)の木が数十本あるとの記録が残る。若宮の杜と呼ばれている。今の社殿は昭和30年に建て替えた瓦葺であり、参道の木も比較的若い木が多い。

## ⑦手水川銅山跡

毛利氏の防長移封の頃(1600年代)には稼働していたと見られるが、1763年の諸国銅山検査令への報告ですでに古跡とされている。今は山中に洞穴が残っている。

## ⑧中畑観音堂

創年は不明であるが、最も古くは松樹庵と称し、平安時代の仏師定朝の作と伝わる十一面観音が本尊であったという。明治の廃仏運動のあおりで今この像は昌福寺(伏野)に移されている。

近辺には開基である寂之和尚(没年明応3年1494)の立派な宝篋印塔や、泰淳和尚(没年1680)の墓、猿田彦、地藏菩薩などが残る。

## ⑨木引き谷

重源上人が東大寺再建の為の木材を串の山で切り出した時、この谷を通過して島地川へ出したといわれている。

## ⑩馬頭観音

18世紀、大久保地区の開墾事業の際、荒地を開墾中斃死した馬を惜しんで観音を彫り、霊を弔ったもの。石そのものは高さ80cm、像高は55cmである。光背を持ち三面六臂の忿怒相はこの付近では珍しい。